

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 11 月 7 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (11/7 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h	25.0	3.2 kPa g	A系： 0.02	vol%
		給水系：約 2.2 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.04	vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h	31.9	4.30 kPa g	A系： 0.08	Vol%
		給水系：約 1.8 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.07	Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h	30.2	0.21 kPa g	A系： 0.08	Vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.06	Vol%

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (11/7 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	20.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	18.7 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	17.1 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	16.4 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	10/27 10:43 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	11/5 16:14 ~ 移送実施中

## < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (11/7 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運 転	水バランスを みて断続運 転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

\*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

## < 5. その他 >

- ・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
- 4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
- 7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。

- 8/12～ ドライアイスを追加で投入開始。
- 10/16～ 2号機開削ダクトについて、間詰め充填工事を開始。
- 10/20～ 2号機立坑Aについて、間詰め充填工事を開始。
- H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- 6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。
- 10/3～ 凍土遮水壁造成工事における凍結管設置に伴い、埋設物(トレンチ等)を貫通させて凍結管を設置する箇所を対象に、事前の溜まり水調査を開始。
- H26/10/22 7:08～ 1号機原子炉建屋カバー解体作業における放射性物質の飛散抑制対策の一環として、当該カバー屋根パネルを取り外す前に同パネルに孔をあけ、飛散防止剤を散布する作業を開始。
- 10/29 8:45 屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布が終了。当該作業期間中において、各ダストモニタおよびモニタリングポストの指示値に有意な変動はなかった。
- 10/31 7:18 オペレーティングフロアの瓦礫調査およびダスト濃度調査等を実施するため、建屋カバー屋根パネル2枚(南3・北3)の取り外し作業を行うこととしており、1枚目(南3)の取り外し作業を開始。ダストモニタおよびモニタリングポストのダスト濃度等については、同日 7:30 現在で有意な変動は確認されていない。なお、屋根パネル1枚目(南3)を取り外した後、オペレーティングフロアの瓦礫調査およびダスト濃度測定等を実施し、その後、飛散防止剤の散布を行った上で、屋根パネル2枚目(北3)を取り外す。屋根パネル2枚目の取り外しの終了は 11/8 頃になる見込み。  
屋根パネルの取り外し作業時においても、飛散防止剤散布による十分な飛散抑制対策を実施するとともに、ダストモニタおよびモニタリングポストのダスト濃度等の監視を十分行いながら、慎重に作業を進める。なお、取り外した屋根パネル2枚については、瓦礫調査およびダスト濃度調査等が終了した後、一旦元の位置に戻す予定。
- H26/11/6 0:10 頃 発電所構内1号機北側道路において、南北に通っている道路上に車両からのエンジンオイルが滴下していることを協力企業作業員が発見。エンジンオイルの漏えいは車両下部にオイルパンを設置して養生。
- 0:40 一般回線で双葉消防本部へ連絡。漏えい範囲については、コンクリート路面上に約 100m の範囲であり、吸着材による拭き取りを実施。
- 2:40 エンジンオイルの漏えいが止まったことを確認。
- 16:40 双葉消防本部より「油漏れ事象」と判断。
- H26/11/6 14:33 頃 発電所構内給油所東側において、200t自走車から作動油が漏えいしていると、協力企業作業員から緊急時対策本部に連絡。漏えいした作動油は、給油所東側付近のアスファルト上に約2m×約2m の範囲で溜まっており、吸着材により回収を実施。当該車両のエンジンを停止したところ、漏えいが停止したことを確認。
- 14:45 一般回線にて双葉消防本部へ連絡。その後、滴下した油については吸着材にて処置が完了。
- 16:22 双葉消防本部より「油漏れ事象」と判断。
- H26/11/7 J2タンクエリアにおいて、11:23 タンク建設工事中に鋼材が落下し、作業員3名が負傷し、そのうち作業員 1名に意識がないとの連絡が緊急時対策本部にあった。これを受けて、11:35 救急車を要請。負傷者3名のうち重傷者を除く2名については、12:33 発電所を出発し、その後檜葉町にて消防防災ヘリに乗り換え、いわき市立総合磐城共立病院へ向かった。重傷者1名については、救急医療室にてドクターヘリの医師による処置を行った後、12:51 救急医療室を退室し、ドクターヘリにて福島県立医科大学へ搬送。なお、当該作業員3名に身体汚染はない。調査の結果、建設中のタンク上部に作業用の梯子を旋回させるための鋼鉄製のガイドレール(形状:半円状、長さ:約25m、重さ:約390kg)の落下によるものであることが判明。当該レールは仮止めされた状態であり、位置調整のため、一旦仮止め治具を緩めたところ、何らかの原因により当該レールが落下したことを確認。その際に、地面に落下した当該レールが跳ねて、当該タンクと隣接しているタンク付近で、堰の設置工事に従事していた作業員3名に接触し被災。

#### 【地下水バイパス揚水井の状況】

- 地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。(No.11 は藻のような生物を汲み上げた原因調査のため、10/15 より停止中)
- 地下水バイパス一時貯留タンクグループ3の当社および第三者機関による分析結果[採取日 10/29]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認したことから、11/7 10:03～16:13 海洋への排水を実施。排水量は 1,549 m<sup>3</sup>。

#### 【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

##### <H4エリア周辺のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

##### <福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【1～4号機サブドレンの状況】

- ・10/18～ サブドレン他水処理施設については、一部のサブドレンピットを使用して、H26/8/12より安定稼働に向けた浄化性能確認試験等を開始しているが、残りのサブドレンピット28箇所を加え、計42箇所(実際はトリチウム濃度の高いNo.1,N14を除く40箇所)について、系統運転試験(STEP3-2)のための地下水のくみ上げを開始。
- ・10/24～ 地下水ドレンピットを使用して、使用前検査のための地下水のくみ上げを開始。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上